

# 平成20年度京都市地域力再生プロジェクト 気づきシート集計結果の概要

- 9割を超える団体が、地域力再生プロジェクト事業の実施により、「課題の解決に近づいた」「団体のメリットになったと実感」と回答
- 「他団体とのネットワークや協働の機会が増えた」団体が8割に増加(19/65%)

## <集計結果>

<交付決定団体数392 回答団体数155 回収率39.5%>

### ■地域力再生プロジェクト参加以前と以後について

質問項目	件数	割合	(参考) 19割合
1 事業の実施により課題の解決に近づいたか。	近づいた	150	96.8%
	変化なし	5	3.2%
	遠ざかった	0	0.0%
	計	155	100.0%
2 実施された事業のやり方で予想されていた効果はあったか。	予想以上	66	42.6%
	予想通り	84	54.2%
	予想以下	5	3.2%
	計	155	100.0%
3 事業の企画に参加した住民や趣旨に賛同する人は増えたか。	増えた	144	94.1%
	変化なし	9	5.9%
	減った	0	0.0%
	計	153	100.0%
4 他団体とのネットワークや協働の機会が増えたか。	増えた	125	81.2%
	変化なし	29	18.8%
	減った	0	0.0%
	計	154	100.0%
5 ネットワークや協働の機会が増えた行政機関	京都府	74	37.6%
	市町村	95	48.2%
	なし	28	14.2%
	計	197	100.0%
6 活動によって「地域住民相互」のつながりは深まったか。	深まった	83	53.9%
	何らかの変化あり	69	44.8%
	変化なし	2	1.3%
	計	154	100.0%
7 活動に参加された方は十分に満足を得ることができたか。	できた	136	87.7%
	わからない	18	11.6%
	できなかった	1	0.6%
	計	155	100.0%
8 活動を実施したことで団体のメリットとなったと実感できたか。	できた	144	92.9%
	わからない	10	6.5%
	できなかった	1	0.6%
	計	155	100.0%

※無回答があり、回答団体数と一致せず(以下同じ)

●「増えた」場合の具体的団体

団体名	件数
NPO	50
大学	38
企業	32
商店街	25

上記以外の主なその他の団体

幼稚園・保育所、小中学校、自治会、ボランティア団体等
----------------------------

※重複回答あり

### ■地域力再生活動の実施によるエピソード等

個々の団体の具体的取組を通じて、事業成果や反省点を振り返っていただいた。「他団体との交流が進んだ」「地域住民の協力が得られた」など、事業実施のメリットを挙げられる団体が多かった。反面、事業継続のための資金不足や後継者育成を課題にしている団体も多い。

### ■地域力再生プロジェクトへの意見、提言、アドバイス等

「地域団体にとってありがたい制度」「メーリングリストによる情報交換は有効」という評価が多かった。また、「22年度以降の支援の継続」「補助率の引き上げ」「補助対象経費の拡大」など交付金への要望が多くみられた。

## 寄せられたエピソード、意見・提言の内容(抜粋)

### ■地域力再生活動の実施によるエピソード

- 事業に対する認知度及び信頼度が向上し、活動がスムーズになった。
- 同じ地域力再生事業を行う他団体との情報交換をメーリングリストなどで行うことができ、相乗効果が生まれた。
- 資金不足の心配も、多くのボランティアの支援があり、事業を終了することができた。
- 中学生から大学生、一般社会人まで、世代も職種も越えた幅広い交流と協力が実現した。
- メディア関係者と市民活動実践者との出会いの場を創出できたと同時に、これまでの活動などに関心のない一般市民も巻き込めたことが良かった。
- 文化財の被害が大きいことが明らかになり、文化庁から調査協力が得られることになった。
- 地域の協力体制があって、寝たきりの障害児の参加があり、普段ではできないことを体験させることができたとの親御さんからの報告があった。
- これまで京都市内が活動の拠点であったが、府下への活動に踏み出すことができた。
- 地域の財産である自然環境にふれ、その大切さを見直す機会となった。
- 宇治も着物の似合う町であると実感し、賛同していただいた各方面からも継続を望まれた。
- 全国レベルでの取組発表ができ、他団体との交流が持てた。
- 若い子どもを持つ若い家族が転入したことによって高齢者の生活環境が明るくなった。
- 不登校、ひきこもりの若者が森林整備作業を通じ、自信や友情を持ってくれた。
- 各種団体との連携を図りながら事業を実施する中で、多くの団体との連帯感を持つことができ、世界遺産登録以外の場面でも情報の交流・連携ができる機会を持つことができた。
- 子ども達に対する活動だけでなく、その保護者や周囲の大人に子ども達のこと、その将来のことを意識し、考えてもらう重要性が認識できた。
- 観光関係者に限らず、水産業、農産物生産者の多大な協力を得られた。
- 地域全体の風通しが良くなり、また地元の学校とも親密になり「開かれた学校の方針にも寄与できた。
- 地域で様々な問題意識を持つ人々との出会いがあり、新たな活動にヒントを得ることが出来た。
- 私たちの活動が、今まで行動しなかった人、声を発しなかった人の一歩踏み出すきっかけとなったことが大きな成果であり、励みとなった。
- アカマツ林が元気になり、マツタケの発生確認数が増加した。
- 休耕田畑の利用について、特に限界集落からの問い合わせが多かった。

### ■地域力再生プロジェクトへの意見、提言、アドバイス等

- 参加団体間の連携、協働への支援(情報共有・共同企画・事前調整)は効果的で、今後も地域力再生プロジェクト及び同種の支援事業が実施されることを期待する。
- 地域の力がなぜ衰退しているのか、根本的な問題に迫ることなしには地域力再生はおぼつかない。その点を肝に銘じて、活動を展開していくことが望まれていると思う。
- 多くの団体が参加するようになったが、その場限りにならないようにしてほしい。
- 設立後に悩んでいるクラブは多いので、いろんな面で協力を願いたい。
- いきなり府ではなく、小地域ごとにまとまってはどうか。
- 22年度以降にも、効果ある活動に対する支援をお願いしたい。
- 交付金の活用状況がもっとわかりやすくすべき、有効に使われているかどうかわかりにくい。
- 他団体とのコラボカフェをもっと開催してほしい。
- 持続的に行事や取組を地域で行う力を作るため、可能な限りコミュニティビジネス等を育成する視点や援助をお願いしたい。